

減災のための取組目標（案）について

過去の水災害からみた課題（嘉瀬川・六角川流域）

- 平成2年7月洪水以降、大規模な被害を生じるような水害が発生しておらず、地域住民の水防災意識が低下している。
- 近年の洪水においては、避難勧告・指示が発令されたにもかかわらず、避難行動を起こす人が少ない。
- 2次避難を見据え、避難勧告・指示等の情報を迅速・的確に地域住民へ伝える必要がある。
- 自治体が発信する防災情報や避難勧告・指示等の内容・入手方法を地域住民が十分理解していない。
- 低平地であることから、長期的かつ広範囲な浸水被害や道路冠水等による避難遅れ、水防活動への支障が発生する恐れがある。
- 想定浸水エリア内にも依然として避難所が数多く存在しており、エリア内の垂直避難に加え、エリア外への広域的な避難が重要となる。

取り組み目標（案）【嘉瀬川・六角川流域】

■5年間で達成すべき目標

大規模水害に備え、広域的な避難行動と洪水被害軽減の取組を柱とした「自助・共助・公助のバランスのとれた地域防災力の構築」で被害の最小化、早期回復を目指す。

■上記目標達成に向けた3本柱の取り組み

広大な低平地に位置する嘉瀬川・六角川流域では、洪水被害や高潮被害により長期的かつ広範囲な浸水被害の危険性があるほか、甚大な内水浸水被害が想定される。河川管理者が実施する河道整備等のハード対策に加え、ソフト対策として、広域的な関係機関の連携による「地域防災力の構築」を推進する。

1. 水防災意識の向上と防災情報の的確な収集・伝達・理解・共有を推進するための取組
2. 広大な低平地である流域特性を踏まえた広域的な避難行動へ向けた取組
3. 洪水被害軽減のための取組と既存施設運用の工夫等の取組

過去の水災害からみた課題（松浦川流域）

- 平成2年7月洪水以降、大規模な被害を生じるような水害が発生しておらず、地域住民の水防災意識が低下している。
- 近年の洪水においては、避難勧告・指示が発令されたにもかかわらず、避難行動を起こす人が少ない。
- 2次避難を見据え、避難勧告・指示等の情報を迅速・的確に地域住民へ伝える必要がある。
- 自治体が発信する防災情報や避難勧告・指示等の内容・入手方法を地域住民が十分理解していない。
- 未整備区間が残る中上流部では、ひとたび大きな洪水が発生すると、狭い山間部と河道が一体になって激流が流れるため、避難路の寸断による孤立者の発生、家屋の流出等甚大な被害となる。
- 山間部では、想定浸水・土砂警戒エリア内に避難所が点在しており、避難の迅速な対応や状況把握のため、地域の防災を担う人材の確保が急務となっている。

取り組み目標（案）【松浦川流域】

■5年間で達成すべき目標

大規模水害に備え、地域連携・協働と洪水被害軽減の取組を柱とした「自助・共助・公助のバランスのとれた地域防災力の構築」で被害の最小化、早期回復を目指す。

■上記目標達成に向けた3本柱の取り組み

松浦川流域では、流域全体で洪水による浸水被害の危険性があるほか、特に山間部では未整備区間が多く残り、甚大な浸水被害や内水被害が想定される。

河川管理者が実施する河道整備等のハード対策に加え、ソフト対策として、地域住民と一体となった「地域防災力の構築」を推進する。

1. 水防災意識の向上と防災情報の的確な収集・伝達・理解・共有を推進するための取組
2. 地域住民・市民団体・関係機関の連携・協働による地域の将来を担う人材の教育・発掘に向けた取組
3. 洪水被害軽減のための取組と既存施設運用の工夫等の取組